

主催者閉会あいさつ

21世紀臨調共同代表 北川 正恭

今日は、長時間に亘りましてこの検証の大会をですね、政党の皆さんにもお世話になりました。あるいはこれの検証の評価をして頂いた団体の皆さん、あるいはシンクタンクの皆さん、本当にありがとうございました。また会場の皆さんにもですね、常日頃から臨調の政治改革活動について大変なご支援を頂き、今日もご熱心にご参加頂きましたことを高い席から失礼ではございますが、厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

あの、色んな批判の、批評の中にですね、評価の中に、やはり国としての明確なビジョンと言いますか、価値を前提に掲げてそしてその下にどういう業績があったかという評価というのが取られるべきではないかというのが大きな流れのご意見であったと思います。従いましてですね、私どももそういったことを踏まえて、頑張らせて頂きたいとは思いますが、今日ですね検証の大会がこのように盛大に持つことができたこと自体をですね、真価と考えて実は喜んでいるところでございまして、こういったことを積み重ねながら佐々木代表、西尾代表からも話がございましたが、この参議院選挙でまずですね、マニフェストだけではない全体の民主主義のレベルアップということからいけば、まず公職選挙法の一部改正をですね、ものにしてやっぱり一步一步確実に進んだなという、そういう運動体にですね、私どもは是非していきたいと、このように考えておりますし、各政党の皆さんも真摯にマニフェストについてですね、正直申し上げて出てきてくれるのかなということも心配をしたところもございましたが、おいでをいただいてですね、対応していただいたということは、大変私どもにはありがたいことございまして、各政党の皆さんにも公選法改正、さまざまな法律改正、制度改正について、運動を続けていきたいと思っておりますから、是非みなさんと一緒にやらせていただければと、そのように思います。

今の時代が、あれも、これもできない、あれか、これか、という財政事情から申し上げてもそういうことでございます。あるいは、制度論からいっても中央集権だけで本当にマニフェストが達成できるのか。昭和22年にですね、地方自治法ができて以来、地方自治は民主主義の学校と言われながらですね、果たしてどれだけの成果があったかというのは、まさにいろんな努力で着実に進んでますが、決定的にやっぱりビジネスプロセスをリエンジニアリングするというような、そういったこともこの際はマニフェストを通じて、契約による選挙ということで、本当に断固たる政策を先送りすることなくやる、というようなことの一里塚として、今日の検証大会を位置づけさせていただきたいと思います。万事にわたり不行き届きな点もあったと思いますが、ご了承いただけたらありがたいと思います。これを一つの契機としましてさらに、進化、発展するために頑張ってもらいますから、今後とも一緒に、ご活動をいただきますようお願いを申し上げ、改めてお世話になりました皆さんに感謝を申し上げて閉会の言葉とさせていただきます。本日はありがとうございました。